

頁	該当箇所	誤	正
202 (※)	右下9行目	水冷凝縮器：0.17～1.16 kW/(m ² ・K)	水冷凝縮器（ローフィン管）： 0.7～1.16 kW/(m ² ・K)
225 (※)	左下8～7行目	・・・増加とともにが減少するが、・・・	・・・増加とともに減少するが、・・・
198 (※)	右15行目	・・・クランクケース内の油量少ないと・・・	・・・クランクケース内の油量が少ないと・・・
47 (※)	右19, 20, 30, 31行目	q_{vrk}	V_H
		q_{vro}	V_L
48 (※)	右上から3行目	q_{vrk}	V_H
	右上から21行目	$\frac{q_{vro}}{q_{vrk}} = \alpha$	$\frac{V_L}{V_H} = \alpha$
49 (※)	左1行目	$\frac{q_{vro}}{q_{vrk}}$	$\frac{V_L}{V_H}$
148 (※)	左下8行目～	感温筒内に常に封入媒体の飽和液が存在するように、ガスチャージ方式よりもチャージ媒体量が多くなっている。従って、ガスチャージ方式とは異なり、受圧部のある・・・作動しない。	感温筒内に常に封入媒体の飽和液が存在するように充填している。しかし、液チャージ式の温度自動膨張弁とは異なり、サーモスタットの場合、感温部の感度をよくするために感温部の内容積を大きくできないので、受圧部のある・・・作動しない。
121 (※)	左上から8～10行目	・・・存在している。 従って、膨張弁本体の温度条件が弁動作に影響することなく、感温筒温度と蒸発圧力だけで弁動作が決まる。	・・・存在している。 一方、本体受圧部およびキャピラリーチューブ内もチャージ媒体が液の状態を満たされている。そのため、膨張弁本体やキャピラリーチューブの周囲温度条件が、膨張弁の作動に影響することがないように、感温筒の内容積を本体受圧部

			とキャピラリーチューブの合計内容積より大きくして、弁の作動が感温筒温度と蒸発圧力だけで決まるようにしている。
13 (※)	左上から3行目	$\frac{1.3}{1.3-1} (1.8797 \times 0.19738)$	$\frac{1.2}{1.2-1} (1.8797 \times 0.017872)$
12 (※)	右上から13行目	$v_2 = v_1 \left(\frac{p'_2}{p_1} \right)^{\frac{-1}{k}}$	$v_2 = v_1 \left(\frac{p'_2}{p_1} \right)^{\frac{-1}{n}}$
22 (※)	右上式 2.17	$(COP)_{th.Rp} = \frac{(h_1 - h_4) - q_o(h_5 - h_4)}{(h_2 - h_1)}$ $= (COP)_{th.R} - \frac{q_o(h_5 - h_4)}{(h_2 - h_1)}$	$(COP)_{th.Rp} = \frac{(h_1 - h_4) - q_p(h_5 - h_4)}{(h_2 - h_1)}$ $= (COP)_{th.R} - \frac{q_p(h_5 - h_4)}{(h_2 - h_1)}$
28	右下から16行目	凝縮温度 $t_k = 35^\circ\text{C}$	凝縮温度(露点) $t_k = 35^\circ\text{C}$
28	右下から16行目	蒸発温度 $t_o = -38^\circ\text{C}$	蒸発温度(沸点) $t_o = -38^\circ\text{C}$
29	左上から1行目	$p_k = 1.6162 \text{ MPa}$	$p_k = 1.6018 \text{ MPa}$
29	左上から2行目	$P_0 = 0.14728 \text{ MPa}$	$P_0 = 0.1473 \text{ MPa}$
29	左上から5行目	$= \sqrt{1.1612 \times 0.14728} = 0.48043 \text{ MPa}$	$= \sqrt{1.6018 \times 0.1473} = 0.4857 \text{ MPa}$
29	左上から10行目	$h_2 = 370 \text{ kJ/kg}$	$h_2 = 374 \text{ kJ/kg}$
29	左上から12行目	$h_4 = 385 \text{ kJ/kg}$	$h_4 = 386 \text{ kJ/kg}$
29	左上から13行目	$h_5 = 244 \text{ kJ/kg}$	$h_5 = 243 \text{ kJ/kg}$
29	左上から16行目	$v_1 = 0.1330 \text{ m}^3/\text{kg}, v_3 = 0.0400 \text{ m}^3/\text{kg}$	$v_1 = 0.1317 \text{ m}^3/\text{kg}, v_3 = 0.0406 \text{ m}^3/\text{kg}$
29	左下から16行目	$= \frac{(10 \times 13900 \div 3600) \times 0.1330}{350 - 200}$	$= \frac{(10 \times 13900 \div 3600) \times 0.1317}{350 - 200}$
29	左下から15行目	$= 0.03423 \text{ m}^3/\text{s}$	$= 0.03390 \text{ m}^3/\text{s}$
29	左下から14行目	$q_{mro} = \frac{q_{vro}}{v_1} = \frac{0.03423}{0.1330} = 0.2574 \text{ kg/s}$	$q_{mro} = \frac{q_{vro}}{v_1} = \frac{0.03390}{0.1317} = 0.2574 \text{ kg/s}$
29	左下から10行目	$= 0.0406 \times 0.2574 \times \left(\frac{370 - 200}{363 - 244} \right)$	$= 0.0406 \times 0.2574 \times \left(\frac{374 - 200}{363 - 243} \right)$
29	左下から9行目	$= 0.01471 \text{ m}^3/\text{s}$	$= 0.01515 \text{ m}^3/\text{s}$

29	左下から 8行目	$q_{mrk} = \frac{q_{vk}}{v_3} = \frac{0.01471}{0.0400} = 0.3678 \text{ kg/s}$	$q_{mrk} = \frac{q_{vrk}}{v_3} = \frac{0.01515}{0.0406} = 0.3732 \text{ kg/s}$
29	左下から 4行目	$= 0.2574 \times (370 - 350)$	$= 0.2574 \times (374 - 350)$
29	左下から 3行目	$+ 0.3678 \times (385 - 363)$	$+ 0.3732 \times (386 - 363)$
29	左下から 2行目	$= 5.15 + 8.09 = 13.24 \text{ kW}$	$= 6.18 + 8.58 = 14.76 \text{ kW}$
63 (※)	表 5.3	R717 (アンモニア) ODP R11 比 : 0.02	R717 (アンモニア) ODP R11 比 : 0
63 (※)	表 5.3	R717 (アンモニア) GWP CO ₂ 比 : 0	R717 (アンモニア) GWP CO ₂ 比 : < 1
29	左下から 11行目	$q_{vrk} = v_3 q_{mrk} = v_3 q_{mro} \left(\frac{h_2 - h_1}{h_3 - h_6} \right)$	$q_{vrk} = v_3 q_{mrk} = v_3 q_{mro} \left(\frac{h_2 - h_1}{h_3 - h_6} \right)$
202	右下から 20行目	図 14.13 に示したものが	図 9.14 に示したものが
231 (※)	付表 2	GWP 大気中年数 20年 100年 500年 R717 (NH ₃) 0 0 0	GWP 大気中年数 20年 100年 500年 R717 (NH ₃) - <1 -

(※) は 6 刷以降の正誤となります。